

鉄鋼業界で働く

Work

—女性開発職編— インタビュー(上)

金属リサイクル業界で活躍する女性が増える中、総合リサイクルの平林金属(本社＝岡山市、平林実社長)では技術開発部で2人の女性社員が資源循環社会の実現を目指し、リサイクル技術の向上に取り組んでいる。花房美奈美さん、中村絢夏さんに話を聞いた。



花房さん

「なげりサイクル業の仕事をしたというのラキンで、えこ便(店舗)があつて、専門学校でも型の資源回収事業を担う。環境系の勉強をしたり、生感系の調査をしたり、環境について学んでいました。就職活動中に唯一見つけたリサイクル関連の企業がヒ

環境系の仕事に興味

中村「私は、リサイクルという職業に正直興味はありませんでした。ずつとソフトボールを続けており、高校卒業後も続けたいなど思う中、ヒラキンの女子チームの存在を知りました。会社としてもソフトボールに力を入れており、社員の皆さんが応援してくださる良い会社だと。各地にチームはありますが、ここに加入したいなと思ひ、決めました。入社前にリサイクル業についても調べましたが、決め手はソフトボールでした。——そういう方は意外と多い。



中村さん

中村「女子選手の多くは、私と同じような思いで入社・入部しています。女子チームができてから、女性の働きやすい環境づくりに取り組みが始まりました。家電リサイクル部門を中心に女性社員が増えました。私も以前は、家電リサイクルの工場勤務していました。——異動は何かきっかけが。」

中村「6年ほど現場を担当しており、時々、技術開発部の方が現場に来られ、さまざまなテストを実施していました。実際に手伝いをしていて、面白いと感じ、自分も技術開発部でやってみたい」と話をしていた。そこから2、3年後に打診があり、ぜひやらせてくださいということで、技術開発部へ異動することになりました。

花房「私は入社時から技術開発部でしたが、他に女性がいなかったのでも、上司に『同世代の女性の同僚が欲しい』と言った。中村さんや花房さんという女性が増え、興味あると言っていました。——異動は何かきっかけが。」

中村「社内での設備導入前の機器選定や事前テストなどを行うほか、稼働後の品質管理や設備改善といったことをやっています。さらに自社での成果を踏まえ、社外に向けて技術提案していくという仕事もあります。グループ会社のヒラキンテックと連携して、リサイクルプラントの設計やノウハウの指導などを行っています。」

鉄鋼業界で活躍する女性をはじめとした多様な人材未来を担う人材を、随時紹介していきます。

部活動が入社の動機

花房「私は入社前から技術開発部でしたが、他に女性がいなかったのでも、上司に『同世代の女性の同僚が欲しい』と言った。中村さんや花房さんという女性が増え、興味あると言っていました。——異動は何かきっかけが。」